

俳句

大津俳句会

噴水のかたちを崩し風が押す

井芹眞一郎

競ひ合ふゴールの先に雲の峰

秋山 恵子

コロナ禍に風鈴の音もしづみがち

市原 初女

公園に一服すれば蝉時雨

大塚喜久子

白靴をはいて気持ちを立て直し

佐賀 久子

不知火やわだつみの声聞いてをり

松尾 昭雅

水に生れ風に乗りたる糸蜻蛉

岡崎 浩子

ぼつぼつと星の生まるる黄管の野

森山美穂子

蝉時雨朝の読経の声太し

佐澤 俊子

俳句

つのはな句会

若竹の林を過ぎて海の風

塚本 洋子

諦観のまださめきれぬ ソーダ水

榮田しのぶ

生命線秋へと伸ばす 長い列

志賀 孝子

逆上がり出来た日の大夕焼

田上 公代

炎天を背負って登る木の梯子はしご

木庭 杏子

降り積もる記憶の森となる白夜

上杉 波

抜け駆けの小悪党いる夕薄暑

矢嶋 道子

万緑や命ふつつ湧くこの日

水野 春子

田に水をはる 地球はよみがえる

梅木トキエ

俳句

大津短歌会

憂いたる病も癒えし嫁なれば引くおみく
じも大吉であれ

吉永 恵子

緩やかに続く坂道さざ波をたたせて雨の
白く煙れり

坂本 杲子

梅雨休みみ緑色増す鞍岳の裾野に靄の立ち
込めし朝

鞍 岳志

花見宴老人会は久々に晴ればれ笑顔目見
えて嬉し

菅野 静

デイサービス 偶然会いたる同窓の友を
語らう戦中戦後

豊岡ミツル

六十年育て続けしダリヤとう夏日に映え
て鮮やかに咲く

小平 善行